

〔冬季直売用切花における低コスト・安定生産技術の確立〕
スプレーストック「カルテットホワイト」の2度切り栽培と播種時期

田旗裕也・岡澤立夫
(園芸技術科)

【要 約】「カルテットホワイト」を7月中旬から8月初旬に播種すると、年内と卒入学シーズンの2度切りが可能である。8月11日以降の播種は、冬季連続収穫が可能だが、2番花が需要期以降に遅れ、30cm以下の切り花長になるため、2度切りのメリットは少ない。

【目 的】

スプレー咲きストックは側枝開花性が高く、都内の直売切り花生産者間で導入率が高い。本種の作型は市場出荷型産地で検討されているが、直売での出荷規格や栽培方法が異なり、2度切り（2番花収穫）をねらう都内での適用は困難である。そこで、播種日が収穫期と収量に及ぼす影響を都内栽培方法に準じて明らかにする。

【方 法】

スプレーストック「カルテットホワイト」を供試した。2011年7月11日から8月31日の期間中、概ね10日間隔で播種し、播種日の異なる6区を設けた。播種は市販用土(TM-2)を用い200穴セルトレイを使用した。発芽個体の八重鑑別は、子葉展開時に残存率30%で選抜した。各播種区とも播種1ヵ月後に無加温ガラス温室内へ条間30cm株間30cmの2条植で定植し、定植後30~45日で本葉10枚残して主茎を摘心した。なお、各区とも側枝整理は行わなかった。基肥は、被覆複合肥料14-12-14で3要素成分量各3.0kg/aとし、追肥は液肥20-20-20の適宜施用(N=200ppm)とした。収穫は3輪開花時とし、一番花収穫時には切り下1節残しとした。2012年5月1日を実験終了日とした。

【成果の概要】

1. 温室内気温は最低3℃だった(図1)。栽培全期間中の合計収量は、平均で12~14本だった(図2)。
2. 7月11、22日、8月1日播種区の収穫は、11月下旬を中心とした第1ピークと3月下旬を中心とした第2ピークに分かれ、12月下旬から3月上旬まで未収穫期間が生じた。8月11日播種区は第1収穫ピークが小さく1月から3月中旬まで株あたり本数は少ないものの収穫が可能だった。8月22日以降の播種区は、年内収穫ができず第1収穫ピークが2月上旬以降、第2収穫ピークが4月上旬以降だった(図3)。
3. 各播種区とも年内収穫の切り花長は、採花時期が遅れるにしたがい長くなる傾向があった。曲がり程度も大きくなったが、非売花率は15%未満に保たれた。7月11日から8月11日播種区の第2収穫ピークは30cm以上の切り花長が得られ、曲がり程度は20~40で、非売花率は小さかった。
4. まとめ：7月22日から8月1日播種は、安定した1・2番花の収穫が見込め、年末需要と入学式需要に応じられる。端境期対策としての冬季連続採花は、8月11日播種で達成できるが、2番花の開花ピークが4月以降になり、導入のメリットは少ない。

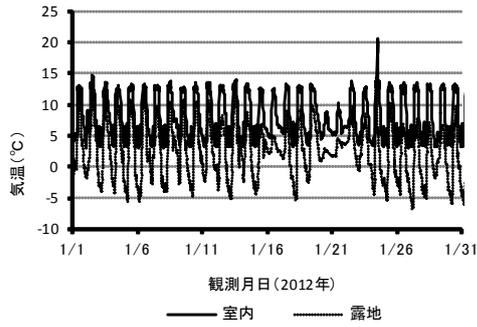


図1 気温推移 (2012年1月)

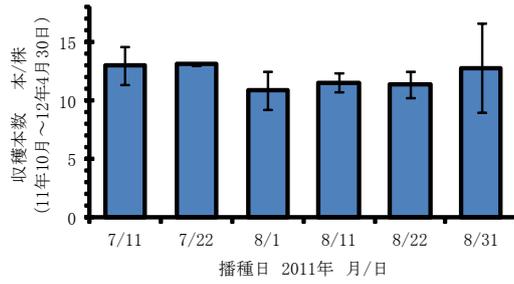


図2 栽培全期間の1株あたり収穫本数
注) 上下線は標準誤差

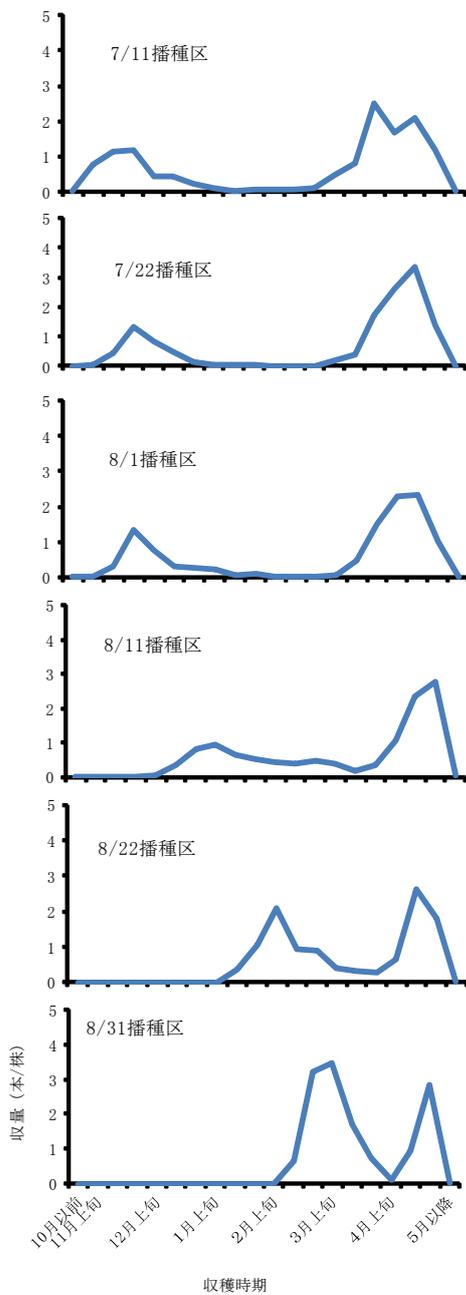


図3 各区旬別の収量

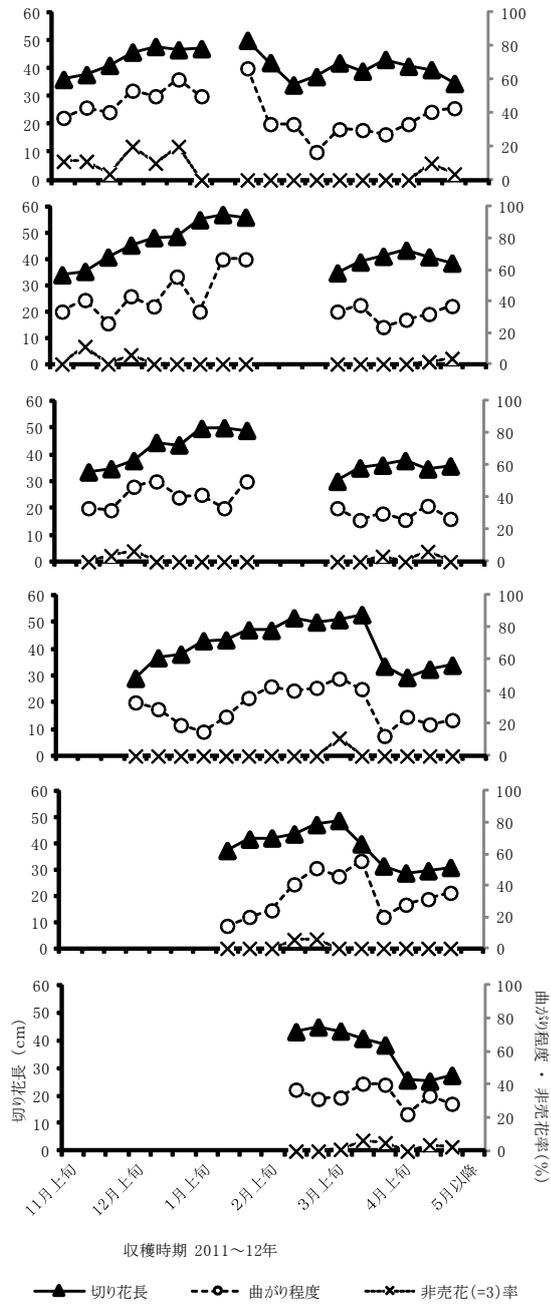


図4 各区旬別の切り花長, 曲がり程度, 非売花率